

計画素案(たたき台②)の協議においてだされた意見・要望・質問等

No.	素案(たたき台②)への意見・要望・質問等	回答・たたき台③での対応状況等
1	計画書が白黒印刷の場合、グラフも白黒対応にした方がよい。	そのように対応した。
2	P7図5「要介護(要支援)認定者数の推移」の「要介護5」等の説明があった方がよい。	P8図5の下に要介護ごとの身体状態の説明を追加した。
3	P9下のHA1c(ヘモグロビンエーワンシー)は今年から国際基準値(NGSP値)に統一されているので、北海道の計画と同様に従来のJDS値と併記した方がよい。	HA1c(ヘモグロビンエーワンシー)の説明文に国際基準値(NGSP値)の説明を追加し、これに関わる表はすべてJDS値と併記した。
4	市民の糖尿病の実態について具体的に知る方法はないか。	市民全体の実態を表すものはないが、市国保の特定健診結果よりHA1c(ヘモグロビンエーワンシー)の有所見者が受診者の約6割を占める(P10)という表現を追加した。
5	各ライフステージの健康目標で、意味は同じなのに文言が違っているので、統一したほうがいい。(例「運動習慣…」)	各ライフステージの健康目標を一覧にし(資料編P41)、統一できるものは統一した。
6	「…喫煙しない」という健康目標は、指標が喫煙する人の割合の減少なので、「禁煙する」でいいのではないか。	働く世代および高齢期の目標として「 <u>禁煙</u> し、 <u>飲酒は適量にとどめる</u> 」という表現に変更した。
7	職場の分煙を推進しているので、次世代だけではなく働く世代にも受動喫煙防止を健康目標に入れてほしい。	次世代と同様に、働く世代および高齢期にも「受動喫煙の機会をなくする」の目標を追加した。
8	高齢者の社会活動について実態をより正確に把握できる方法をお願いしたい。	高齢期の社会活動に参加した人の現状値(35.2%)は、平成23年市民アンケートの結果を用い、その社会活動の内容については全年代であるがP14休養・こころの健康の記載文とP15図13に表した。
9	小学生の肥満の数値が実態を反映していないと思う。	幼児と同様の肥満度20%以上の小学生の割合は、さらに多いと推定されるが、教育委員会から定期的に報告されている数値であるので、指標の目安とした。
10	次世代の取組に「メディアの利用」について入れてほしい。	次世代の「早寝、早起き、朝ごはん」の取組の文章および取組事業に追加した。
11	純アルコールの清酒への換算量などわかりやすく表記したほうがよい。	P30、36の飲酒に関する指標の下に説明分を追加した。
12	自殺の原因についても記載したほうがよい。	たたき台③P14「休養・こころの健康」の文中で説明を追加した。
13	19歳までの死因の1位が自殺であることから、次世代の目標にもこころの健康を入れたほうがよい。	過去の10代の自殺者の殆どは18歳以上が多いが、次世代のこころの健康にかかわる取組は、次世代育成支援行動計画の次期計画や子ども条例に盛り込まれ対応する予定である。